

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

5 学年を対象として行われた、平成 30 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の本校の状況についてお知らせします。

8 種目の体力テストの成績を得点化したものの総和である体力合計点でみると、男女ともに全国平均点を下回る結果となりました。

男子は 8 種目中 3 種目（長座体前屈、立ち幅とび、ソフトボール投げ）で全国平均を上回りました。女子は全種目で全国平均を下回りました。男女ともに、50m走、シャトルラン、反復横とびの 3 種目で全国平均を大きく下回る結果となっています。

質問紙からは、男子は、運動・スポーツをすること、体を動かすことが好きと答えた児童の割合が全国を上回っていますが、女子は運動に対する意識が低い傾向が見られています。しかし、少年団や地域のスポーツクラブに入って活動する割合は、全国よりも高くなっています。朝食や夕食を食べる割合は、全国平均を上回っています。平日のテレビを見たりゲームをしたりする時間は、男子は全国よりも短い傾向にありますが、女子が全国よりも長い傾向が見られています。

本校といたしましては、引き続き、適切な運動量を確保する体育科等の授業改善をすすめるとともに、家庭や地域、関係機関と連携しながら、児童の生活習慣の見直しの働きかけを行いたいと考えております。

なお、本調査の結果につきましては、全国学力・学習状況調査に関する調査の結果同様に「地域の学校教育の状況に関する説明責任」「学校・家庭・地域が連携して学校教育と家庭教育、地域の教育力の相互努力による体力向上の取組の一層の充実」という観点から、全国平均と本校の平均と比較したグラフを下記に示しました。

しかしながら、体力や運動能力等に関する調査では、地域や学校によって、学力に関する調査以上に「実施上の条件の差異」が見られることから、単に数値だけでは判断できないことをご理解いただきたいと思います。

